

懇談会発言予定分 意見・提案・開示の要旨

1. 変更案への意見

意見

実動する連携事業案とは思えず、有効打にはならないものと受け止める。構想の「広がり」に進捗は見られても、「奥行き」（だれが、どこで、何をして、地域がどう変わるのか）を全く感じない。ゼロ予算事業を伴うのならば、なお更のこと、細部を精緻に描くべき。

2. 連携事業の重層化

提案

(1) 共通連携事業 現行の連携事業

自立圏構想を介し、圏域が一丸となって取り組むべき、共有課題へのスクラム。

(2) 選択連携事業 新設の連携事業

自立圏構想の中で、各々の町が是非、圏域運営において注目してもらいたい、個別具体の事案。

(3) 重層化（圏域で培う相互互恵の精神）

常に2枚重ねの連携事業を意識しながら、8分の1の役割分担を各市町が自覚する。以上を、1つの約束事として、以後の審議会運営で継ぎ、「郷土の円卓」づくりを促す。

上川中部定住自立圏域共生ビジョン

共通連携事業	生活機能の強化 結びつきやネットワークの強化 マネジメント能力の強化			
選択連携事業	上川町	愛別町	比布町	～ 藤橋・当麻・東川・東神楽
	圏域観光資産への取組み	圏域経済資産への取組み	圏域教育資産への取組み	

開示

3-1. 選択連携事業の具体例 比布町を事例とした圏域教育資産への取組み

SSマルシェ 比布町蘭留地区

3-2. 現行への追加提案 ホスピス機能の近隣配置による圏域医療中枢の拡充

Sマルシェ 各町中心集落

3-1 選択連携事業の具体的イメージ 比布町を事例とした圏域教育資産への取組み

圏域が抱える休眠教育施設の高度利用と「心の教育・命の教育」

取組の内容

既に上川圏域には、必ずしも有効利用が図れていない教育施設が多数存在する。こうした優良社会資本に関わる再利用への取組みは、単独町のみが抱える個別事案ではなく、全体で受けとめるべき圏域課題と思われ、その有効利用度の向上を圏域全体で図る。

甲の役割（旭川市）

情報を共有し、乙と連携した高度利用の検討を行い、その連絡調整に努める。

乙の役割（関係町）

情報を共有し、甲と連携した高度利用の検討を行い、その代表において主導的役割を担う。

効果

「全体で受け、全体で向っていく」。高度に成熟した集水域連合として、上川中部圏の結束力を強く内外に印象づけ、「心の教育・命の教育」をベースとした地域運営を、地域の意志の明確な表明として謳う。

例えば、「蘭留小学校の有効利用に何とか道筋を付けたい、圏域の皆さんにも協力してほしい」という動機づけのもと、比布町をリーダーに、圏域教育資産への取組みをスタートさせる。

既に上川圏域には、積極的再利用が図れていない教育施設が多数存在。こうした優良社会資本に関わる有効利用への取組みは、単独町のみが抱える個別事案ではなく、上川域全体で受けとめるべき、圏域課題と思われる。

情報を比布町（定住自立圏担当）に一元化し、ひとつのマチが取りこぼしても、その他の町に、客を振る。1つのマチで力及ばない場合は、中核市たる旭川が、間髪を入れず側方支援する。それでも叶わないときは（脈があるのであれば）、圏域全体でプレゼンを掛ける。

以上により、「心の教育・命の教育」を基調とした、市町界を克服する次代の地域運営（第3ステージ）を、域内住民に広く周知し、圏域意識の高まりと更なる醸成を目指す。

該当、『圏域教育資産』として受けとめる教育施設群

比布町 蘭留小学校 直近の「八坂公園」

写真1, 2段

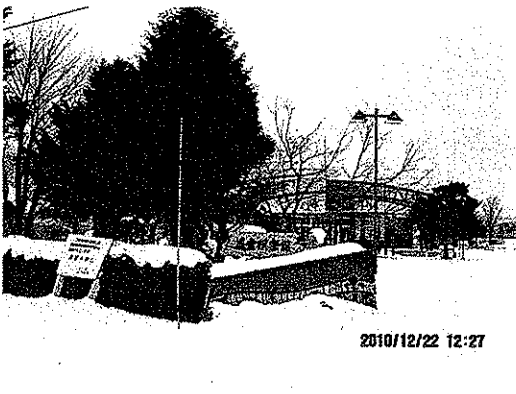
愛別町 協和小学校 隣接する「やまびこ館」

写真3段

上川町 東雲小学校 近隣美沢地区「ホテルの里」

写真4段

その他、圏域内において多数確認。



3-2 現行への追加提案

ホスピス機能の近隣配置による圏域医療中枢の拡充

取組の内容

「都市系ホスピス・農村系ホスピス・山岳系ホスピス」のいずれかを、近隣各町が中心集落周辺に組成し、1次医療の底上げと体制強化、ならびに旭川市医療中枢との連携による中核機能の底固め、医療サービスにおける他圏域との明確な差別化を図る。

甲の役割（旭川市）

企画・実動するなかで情報を共有し、主に市内開業医への働きかけを行い、市町界を超えた連絡調整に努める。

乙の役割（関係町）

企画・実動するなかで情報を共有し、各町独自のホスピス環境を整える。

効果

単に医療施設・人員の数的優位だけではなく、ホスピス機能の付加により、地域医療の質的充実、競合圏域（札幌）に対する医療サービスの差別化、道北連携域等の医療属性の囲い込みが強化される。合わせて、近隣1次医療の負担軽減・体制強化と、サポート体制の確立による、市内医療資産（個人開業医）の活性化・交流促進による、圏域医療中枢の底固めが可能となる。

以下、3系のいずれかのホスピス機能を、各町がその中心集落周辺に保有することは、1次医療の底上げと体制強化、並びに2次医療との更なる連携拡充が期待できる。

都市系ホスピス	都市的要素を多分に含んだ医療集積	比布町・鷹栖町・東神楽町
農村系ホスピス	農村的要素を強めた医療集積	当麻町・東川町
山岳系ホスピス	山村の要素を絡めた医療集積	上川町・愛別町

ある程度病状の安定した患者を、病院にすし詰めする必要はなく、我々もそれを望んでいない。こうした現状を踏まえ、医療の方向性そのものも大きな変革を意識しており¹、我々の老後において、必須となる地域医療の質的充実は、自らの強い意志で構築されるべき。

町界を超えたコンパクトへの取組みとして、『マチ医者』の概念を覆す必要があり、車社会の現状を鑑みれば、マチ医者をマチなかに求める必要はなく、旧来的なマチ医者と、旭川市内近隣開業医との連携を模索すべき。ホスピス形成に向け「過重の負担を軽減してほし

¹ 「地域医療に関する定住自立圏構想推進シンポジウム」（10/2）我が国の地域医療の現状と課題 自治医科大学 梶井氏 医療の転換期より
～ 死を予防し延命を図る医療から、生命の質を尊び高めていく医療。臓器、疾病中心の医療から、精神面・生活面まで配慮する医療 ～ 我々はこれを看過してはならない。

い ⇒ 負担減にささやかな協力を惜しまない」という、相互互恵の関係を、行政という立場が担保し、「客を取る・取られる」という、現行の通念を排除する。本来的なマチ医者に、市内近隣開業医で構成される準マチ医者をサポーターとしてあてがい、負担軽減・交流活性化等を介し、市が抱える医療資産の底固めを行う。

隙間で見られる各町中心集落に、末期医療を望む患者を招き、次代の先駆けとなる、きめ細かな医療を提供。自宅とは異なる豊かな自然、おおらかな人間関係と、短・中・長期的で機動性に富む居住施設を、安価・平易な体制で、周辺域が3つの選択肢と共に提供する。

山岳系ホスピスについて

医療・介護施設と合わせ、近隣観光宿泊施設を、その枢要の担い手として位置づけ、近年注目される「森林セラピー」等を推進力とする²。十勝高速道の全線開通は、明らかに層雲峡観光の脅威となるはずで、体験型観光等の更なる魅力向上が望まれるなか、この活性化策とリンクする。山岳人口を圏域内に多数組成し、「都市と農村」という2者択一的な振興策ではなく、圏域が抱える潤沢な再生資源としての、山村・中山間域を明確に捉え、郷土を深彫りしていない現状と、今だ、我々が一度も触れていない豊かな自然を、広く圏域住民に再認識させる。

北海道内の緩和ケア施設とネットワーク

ホスピス緩和ケア協会会員（2007年10月現在）

1. 緩和ケアのある病院

東札幌病院	札幌
札幌ひばりが丘病院	札幌
恵佑会札幌病院	札幌
札幌南青州病院	札幌
KKR札幌医療センター／幌南病院	札幌
森病院	函館
函館おしま病院	函館
日鋼記念病院	室蘭
洞爺温泉病院	虻田郡洞爺村
勤医協中央病院	札幌

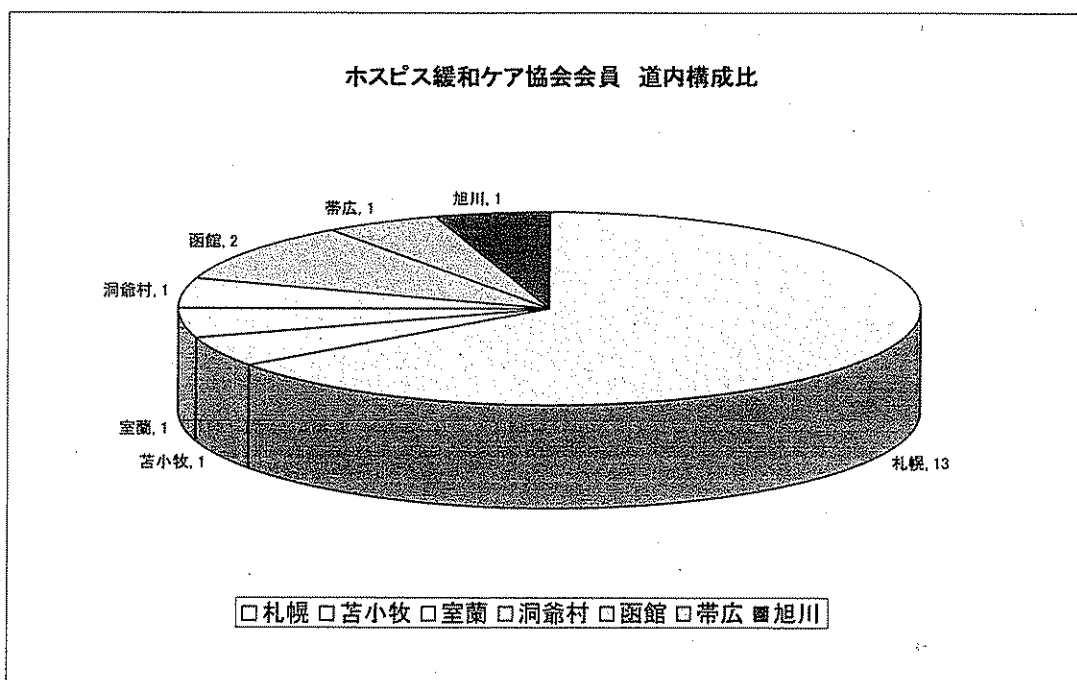
² 森林セラピー基地：リラックス効果が森林医学の面から専門家に実証され、更に関連施設などの自然・社会条件が一定の水準で整備されている地域。現在、国内に44ヶ所、道内では、2007年に鶴居村（民間）、2011年に津別町で、認定を受けた森がある。

2. 開設準備中か緩和ケアチームのある病院

札幌社会保険総合病院	札幌
札幌鉄道病院	札幌
市立札幌病院	札幌
札幌南三条病院	札幌
天使病院	札幌
帯広徳州会病院	帯広
旭川厚生病院	旭川
苫小牧東病院	苫小牧

3. 在宅ホスピスケアに取り組んでいる診療所

静明観診療所	札幌
札幌中央ファミリークリニック	札幌
(北星ファミリークリニック	旭川)



旭川厚生病院HP「がん相談支援センター」より参考データ収集のうえ作成

以上³

³ 「開示」部分については、第3調査報告「圏域運営のスマート・スルー まちかたと、むらかたの心の垣根・その結び目」(次年度投稿予定)第5章「5つのマルシェをベースとした具体的取組と再生手法」の一部を事前表明。